(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2010年8月12日（木）NO 135
地域から明るい未来を作ろう

美意識を忘れた人

最近、特に感じるのですが、日本人の本質は誰かが造った活字の羅列が、人の心を規制し理屈が一人歩きしている感じがする。

欧米の「新自由主義」で日本人の精神を根底から犯されたように思う。

心まで投げだし侵略と闘わず無条件降伏の状況に、私は何か不自然で馴染まない違和感を感じる。

この感覚はどこから来るのでしょう。絶対的な敗北を認めない感覚麻痺でしょうか。

「菅」の隷属国家の宿命は、そもそも見事なまで、稚拙な現実認識にあるのです。

日本人、民族の遺伝子は欧米諸国の介入に対し、分子レベルから拒否反応を示すでしょう。

日本の美学の問題です。

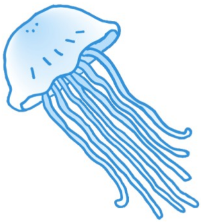
日本人の意識の根底に美意識があるのか、ないかの問題です。

そして、潔さが一番大切な心です。

人々に対して、慈しみと慕う想い、弁柄色の文化、日本人だけが感じる光、空間が。癒される優しい心を育む。

不揃いを愛でる。

美の世界が日本です。



愛することは命がけであってほしいものです。

お盆を迎えて

事務所には神棚が置いてあります。

その横に、創業者西川保氏の遺影を飾っています。（ホームページ掲載）

笑っている葬儀の、あの写真です。

私は、24歳の時二人の先輩（西川保・先田守氏）から、人生の師匠と仰ぐほどの影響を受けました。

先般裁判で、被告側の証人として一人が証言台に立ちました。

今日の現状と自分を、正当化するものでした。

私の青春時代に大きな影響を受けた人が全く相反する立場で証言を行うのを目前にして、隔世の感です。時代の流れを感じます。

裁判に訴え、「天網恢々疎にして漏らさず」検証しています。

結審は10月頃になるようです。

事務所のお盆休みです。
明日8月13～16日(月)
大変迷惑をおかけします。

苦しみから学ぶ人

人は「不可能と思えるものだけに身をよじらせて向かっていくから、誰もが仰天する仕事になる」

今も、いくつもの不安とともにいる。涙を浮かべずにベッドに入る日はなく、毎朝目覚めても、苦しくて、憂鬱で、不安でたまらないのだと。

「もう何十年もの間、苦しみのない日は1日だってありません。でも、僕は常に最低3つは不安を抱えていなければ、もっと不安になる。憂鬱や苦しみがない、追い込まれていないということは、ありきたりの闘いしかしていない証。スムーズに進む仕事なんて、僕じゃなくてもできるはずだから意味がないんだと思わなければ、駄目なんです。平凡な努力からは平凡な成果しか得られない」と見城徹氏は言っている。

経営者の皆さん、今は、戦後最大の経営危機。「超えられない試練はない。天が試練を与え試している」のです。

熱き思い心で、つかこうへい原作(没)・岡村俊一演出の「原爆が落とされた日」が8月6日から上演されました。忘れてはいけません。核を落とした国があります。落とされた国があります。四十数万の非戦闘員を焼き殺したのです。